

言葉がない

大森 海太

前回の書こう会で、最近の若者は言葉がない、バスで席を譲ってくれたのはいいが「どつぞ」とも言わない、という話が出た。

たしかに若いころは挨拶をするのが苦手だった。会社に入ったころ上司から「近ごろの若いもんは世間話ひとつ、ようやらん」と冷やかされたりした。

だがそれとはちょっと違う。

このまえの休日、散歩の途中でラーメンを食べにある店に入ったときのこと、私が店のお姉さんに注文したところ、彼女はそれを席の前にある画面に打ち込んでくれた。

「ア、こうするのか」と私は苦笑い。でもお姉さんは「いいんですよ」とニッコリ。ところがこのあと私のとなりに座った若者は違った。手慣れた様子で画面に打ち込んだあと、黙々とスマホをいじくっている。「お待ちどうさま」とお姉さんが注文の品を運んできても「ごゆっくりどうぞ」と言っても、振り向きもせず一言も発せず、イヤフォンをはめて画面を見ながら、そのまま食事にとりかかる。

おそらくこの青年は朝起きてから夜寝るまで、誰とも会話をしないのかもしれない。話の相手はスマホだけ、友達ともショートメールを通しての意思疎通なのだろう。

またそのことをあたりまえと思つて、ちつとも苦にしていない。逆に対面で話すほうが苦痛なのかも。

そういえばスーパーやコンビニのレジでキャッシュレス決済をしている人。ポイントカードやらなにやら提示しているのだが、これまた一言も発しないし、店員と目を合わせようともしない。

気味の悪い光景だ。

AIが行きわたる世の中。人に何かを言うときも直接相手と顔を合わせずチャットGPTに思いを伝え、代わりにしゃべってもらう。ビジネスの世界では便利かもしれないが、所詮は血の通わぬただの道具にすぎない。それにまたAIを悪用した犯罪も多いと聞く。そんなものはヤメにして、生身の人間同士の対話によって互いの気持ちを通わせよう。

チャットGPT反対！ AI撲滅！ 時代についていけない爺さんの叫びは空しく響く。